

本時のねらい

・ボタンを押して、意思を伝える

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・ボタンを押すことが本児の意思表示の手助けとなり、表現活動を広げていく。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ モニター
- ・ i P a d
- ・ なんでもワイヤレス
- ・ あいさつボタン

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・赤、黄のボタンを順に押して、はじめのあいさつをする ・本時の流れを確認する 	赤ボタン「今から授業を始めます」黄ボタン「よろしくお願いします」を押すことで、学習の始まりを意識させる。
展開 (38分)	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし ・字を書いて、カメラで撮り、記録用の画像を選ぶ (意思表示の練習) ・○×問題 (「え」「お」から「え」を選ぶ、「犬」「馬」から「犬」を選ぶなど) ・絵本の読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた字をカメラで撮る際、モニターを見ながら、i P a d タッチャー（選択ボタン）でシャッターを押す。複数の画像から、記録用を1枚選ぶ。 ・モニターに映しながら、問題の答え方の説明をする。操作をしやすいように、選択ボタンの配置に気をつける。 ・モニターを見ながらページが切り替わるタイミングで、選択ボタンを押せるように声かけをする。
まとめ (2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・赤、黄のボタンを順に押して、おわりのあいさつをする 	赤ボタン「これで授業を終わります」黄ボタン「ありがとうございました」を押すことで、学習のおわりを意識させる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 はじめのあいさつをする



【写真 2】 書いた字を撮影する



【写真 3】 ボタンでページをめくる

児童生徒の反応や変容

あいさつボタンや選択ボタンなど、はじめはボタンに触れることに抵抗があった児童だが、あいさつに使用するボタンはくり返し使うことで、目的に応じた使い方ができるようになった。特に○×問題は、ボタンを通して自分の考えを伝えられることから、表現することへの喜びに繋がっていることが感じられる。表現活動が続くことが刺激となり、ボタンを押すだけにとどまらず、頷いたり、微笑み返したり、手を持ち上げたりと、表現力がとても高まってきている。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ことばで気持ちを表現することが難しい児童に、自分の考えや思いを表現させる機会はとても大切だと考えている。I C T 機器を活用することで、本人の考えや思いに近いことを表現することができている。取組みを始めた当初は、手先に触れることを嫌がるそぶりを見せたが、粘り強く I C T 機器を活用したコミュニケーションを続けることで、考えや気持ちが伝わる喜びを覚えてくれた。これからも気持ちが伝わる成功体験を積み重ねていきたい。